

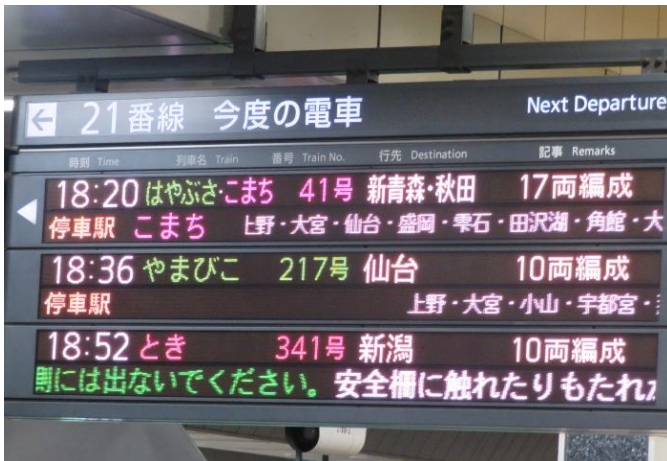
「秋の東北鉄道旅行(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

東北新幹線の「はやぶさ」は、北海道新幹線の「新函館北斗」までの直通で10両編成、「こまち」は秋田新幹線の「秋田」までの直通運転で7両編成だ。この2列車が連結されて運転されるので、実に17両編成となる。



「17両編成」は東海道新幹線の「16両編成」を抜いて、日本一の長編成である。新幹線だけでなく、定期旅客列車としては在来線を入れても日本一だ。編成の長さは400メートルを超えるので、発車まぎわにホームに着くと、自分が乗る車両まで何百メートルも歩かなければいけない。しかも、「はやぶさ」と「こまち」の連結部は通り抜けできないので、乗り間違えると、次の駅まで移動もできない。



この新幹線は全車指定席なので、乗車時の「席は早い者勝ち！」という光景はない。金曜の夕方なので、乗客は出張帰りのビジネスマンが多かった。



私は盛岡駅で降りるので、「はやぶさ」でも「こまち」でも良い。盛岡以遠まで乗る乗客は多くないと思うが、はやぶさのほうが人気があるようだ。私はいづらか空いていた「こまち」の座席を予約しておいた。



「こまち」は秋田新幹線直通専用の新幹線車両だ。秋田新幹線は、盛岡駅から「田沢湖線」に入る。田沢湖線は在来線の普通列車も同じ線路を走り、線路とホームの間隙も狭いので、「こまち」の車両は「はやぶさ」の車両よりも幅が狭い。そのため、東北新幹線区間では、写真のように転落防止の為、渡り板が自動的に出るようになっている。



新幹線の普通車は3+2列シートが多いが、「こまち」は車両幅が狭いので2+2列だ。3列の真ん中(B席)は人気がないが、「こまち」の場合その心配はない。私は窓側だったが、盛岡までとなりの通路側は空席だった。グリーン車に乗ったような気分だった。